

令和2年7月3日

南の風 353

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

日本のU19～16のカテゴリーの選手が、1on1の攻めでディフェンスに間合いを取られた時に攻めずらくなるのは、そういう形態のディフェンスに慣れていないからです。

日本のU15の中学生やミニバスの選手は、『マンツーマンディフェンス規準規則』に沿って競技活動しています。マッチアップエリアからは、ボールマンディフェンスは1.5mの距離でつく規則になっています。オフェンスとすれば、ドライブで抜く技術やフェイクの使い方身につけ、如何にディフェンスを抜くかを練習することが第一なのです。

ですから下がって守るディフェンスに対して、どう攻めるかで迷う選手が多いことは仕方ありません。高校生以上にならないと、ゾーンディフェンスのような間合いを取ったディフェンスの攻めは、経験できる環境にはないからです。

一方戦術からみても距離のあるシュートが不得意な相手に対しては、下がって守ることが効果的なのは言うまでもありません。

『間合いのあるディフェンスに対する攻め方』です。二つ挙げます。

①1on1で安易に仕掛けずディフェンスを動かして、スペースをつくって攻める。

ディフェンスとの間合いがあるので、簡単に仕掛けてしまうとディフレクションやスチールされたり、ドライブを止められ詰まってしまうことがあります。ですから、自分のディフェンスを動かしてスペースをつくるようにします。ディフェンスがついてくれば、空いたスペースを利用して攻めます。ついてこなければ、攻めながら次のディフェンスの状態をみてアウトナンバーをつくるようにします。ディフェンスが積極的に出てこないのですから、中距離のショットやジャンプショットが有効になります。

②オーバーロードで攻める。

ゾーンを攻める時のように、ある地域を味方の選手を集めて攻めるパターンです。一般的には、どちらかのサイドにオフェンスを集めます（4人）。リングに対して右から攻めるとします。

ミドルラインより右のトップの位置に1人、ウイングに1人、ニュートラルゾーン（ローポスト）に1人、ショートコーナーに1人という配置（トップを除いて、トライアングルを作る）です。

このようにして、片方のサイドに4人配置してオーバーロードの状態にして攻めます。目的は、片方のサイドにディフェンスを偏らせることです。このトライアングルを使って攻めますが、チャンスがなければ、ボールを素早く逆サイドに展開します。逆サイドへのパスに合わせて、ローポストの選手がショートコーナーにカットし、元々ショートコーナーにいた選手は逆サイドのローポストにカットしてトライアングルを作って攻めるのです。詳しい攻めは本号では割愛します。

以上です。いずれにしろペリメーター付近、あるいはそれ以上の距離のショット確率が上がらないと、相手にとって脅威になる攻めにはなりません。

次号は、課題2：ハーフコートオフェンスについてです。